

バージョン4.0



FLKEY 37

ユーザーガイド

Contents

はじめに	4
主な特徴	5
同梱物	5
使用を開始する	6
FLkey をコンピュータに接続する	6
イージースタート	6
FLkey をアップデートする	7
サポート	7
各部の名称と概説	8
FL Studio との連携	11
インストール	11
手動による設定	11
トランスポートコントロール	12
プリセットのナビゲーション	13
外部機器との接続	13
FLkey の MIDI 出力を外部 MIDI 機器の MIDI 入力に接続	13
サステイン入力	13
ノブモード	14
バンクの切り替え	15
Plugin	15
Mixer Volume	16
Mixer Pan	16
Channel Volume	17
Channel Pan	17
Custom	18
パッドモード	19
Channel Rack	20
Channel Rack のバンク切り替え	21
Channel Rack グループ	21
Instrument パッドモード	22
FPC	23
Slicex	23
Fruity Slicer	23
デフォルトのインストゥルメントレイアウト	23

Sequencer.....	24
Channel Rackグラフエディター.....	25
ラッチ編集.....	25
クイック編集.....	25
Scale Chordモード.....	26
User Chordモード.....	27
Customパッドモード.....	29
Quantise.....	29
Metronome.....	29
Undo/Redo.....	29
Score Log.....	30
Channel Rackの選択項目の確認.....	30
ループ録音（初回起動時）.....	31
FL Studio ウィンドウのフォーカス表示.....	32
スタンドアローン機能.....	33
ナビゲーションモード - (「…」ボタン).....	33
スケールモード.....	33
Octave ボタン.....	34
Fixed Chord.....	35
ノートリピート.....	36
Note Repeat を使用する.....	36
レートを変更する.....	36
テンポを設定する.....	36
ノート/ドラムヒットのベロシティを変更する.....	36
ノブのピックアップ機能.....	37
カスタムモードおよび Components.....	38
カスタムモード.....	38
ノブ.....	38
パッド.....	38
設定.....	39
LEDの輝度.....	39
ベガスモード.....	39
イージースタート.....	40
重量および寸法.....	40
トラブルシューティング.....	40

はじめに

Novation FLkeyシリーズは、FL Studioで音楽制作をするためのMIDIキーボードです。FL Studioの主要な機能のハンズオンコントロールと高品質な鍵盤を備え、快適に音楽制作が行えます。

本ユーザーガイドでは、FLkey 37を使用するために必要なすべての情報を学ぶことができます。FL Studioでのデバイス設定やスクリプト機能のセットアップ方法のほか、スタンドアロン機能の活用方法なども網羅されており、音楽制作をできるだけ早く簡単に始められるようサポートいたします。

FL Studioと高度に統合されたFLkeyを使えば、気持ち良く音楽制作に集中できます。フルサイズのMIDIキーボードは、音楽制作を自在にハンズオンコントロール可能です。FL Studioのステップシーケンサーと連動するパッドを使うことでビートをすばやく構築でき、2つのパッドモードで感情がこもったリズムを作成できます。またChannel RackやFPCを直接演奏したり、SlicexやFruity Slicerでスライスをトリガーできます。ノートリピートを使えばグリッドに完璧にマッチしたビートを簡単に作成可能です。

FLkey 37は、コンピュータの画面を見ること無く、FL StudioのMixerやChannel Rackを直感的にコントロールできます。8つのノブとトランスポートボタンを用いて、音作りやミックス、オートメーションが簡単に行え、スコアログへのアクセスや、アンドゥ/リドゥ、クオンタイズ、メトロノームのオン/オフもすばやく実行できます。Image Lineプラグインのプリセットを本体の画面でブラウズし、マウスを使わずにインストールメントやサウンドを素早く切り替えることも可能です。

スケールモードなどのツールを使用することで、音を外すことなく演奏でき、創造力を高めることができます。また様々なコードを指1本で演奏できる3つのコードモード (Fixed、User、Scale) を備え、豊かなハーモニーや新しいサウンドを簡単に作り出すことができます。

FLkey MIDIキーボードには、高品質なインストールメントやエフェクトプラグインが多数バンドルされるほか、Novation Sound Collectiveのメンバーシップも付帯します。これらのプラグインをFL Studioで使用することで、好きな時に好きな場所で音楽制作が可能です。

主な特徴

- ・ **FL Studioとのシームレスな連携**：FL Studioの主要な機能に素早くアクセスでき、簡単に音楽制作を行います。
- ・ **Mixer、Channel Rack、プラグインのコントロール**：ボリュームやパンの調整、Image-Line プラグインのコントロール、8つのロータリーノブによるオートメーションを用いた自然なサウンド作成が可能です。
- ・ **ステップシーケンサー**：FL Studioのステップシーケンサーをコントロールし、簡単にドラムを打ち込むことができます。
- ・ **Channel Rackの演奏**：パッドでChannel Rackを直接演奏できます。
- ・ **インストゥルメントのコントロール**：FPCやSlicexをパッドでトリガーし、表現力豊かなビートやメロディを作成できます。
- ・ **音を外すことなく演奏できるスケールモード**
- ・ **クリエイティブなコードモード**：3つのコードモード（Fixed、User、Scale）を使う事で、カスタムコードの割り当てやスケールの構成音によるコード演奏、コード進行の保存などが可能となり、楽曲のアレンジやパフォーマンスを指1本ですばやく簡単に行えます。
- ・ **37鍵ベロシティセンシティブキーボードおよび16のベロシティセンシティブRGBパッド。**
- ・ **プリセットのブラウズ**：FLkey 37のLCD画面を見ながら、Image Line プラグインのお気に入りのプリセットに直接アクセスできます。
- ・ **カスタムモード**：FLkey 37のパッドやノブに操作を割り当て、ワークフローをカスタマイズできます。

同梱物

- ・ FLkey 37
- ・ USB Type-A - Type-Bケーブル (1.5メートル)
- ・ 安全上の注意

使用を開始する

FLkey をコンピュータに接続する

FLkey は、USB バスパワーで動作します。USB ケーブルでコンピュータに接続すると、本体の電源がオンになります。

FLkey を Mac に接続すると、キーボード設定アシスタントが表示されることがあります。これは、ナビゲート機能を有効にするために、FLkey がコンピュータのキーボードデバイスとしての機能を備えるためです。キーボード設定アシスタントが表示された場合は、閉じてしまって構いません。

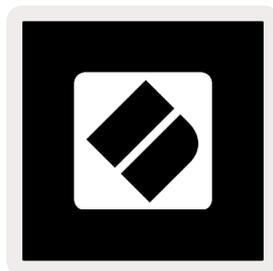


イージースタート

イージースタートツールは、FLkey を手順に沿ってセットアップできるオンラインツールです。製品登録やバンドルソフトウェアのダウンロードなども行えます。

Windows または Mac に FLkey を接続すると、本体が USB ドライブのような大容量記憶装置 (MSD) としてマウントされます。ドライブを開き、「FLkey - Getting Started.html」をダブルクリックします。「Get Started」をクリックすると、イージースタートツールがウェブブラウザで開かれます。

画面の指示に従い必要なソフトウェアをインストールし、FLkey を使用する準備を行います。



イージースタートツールを使用せずに、Novation ウェブサイトで FLkey の製品登録やバンドルソフトウェアのダウンロードを行うことも可能です。

customer.novationmusic.com/register

FLkeyをアップデートする

FLkeyのファームウェアは、Novation Componentsでアップデートできます。ファームウェアバージョンの確認とアップデートは、以下の手順で行います：

1. components.novationmusic.com にアクセスします。
2. FLkey 37 をクリックします。
3. ページ上部の Updates タブ をクリックします。
4. 画面の指示に従いファームウェアのバージョン確認を行います。アップデートが必要な場合は、アップデート方法が表示されます。

サポート

詳細やサポートについては Novation ヘルプセンターをご覧ください。

support.novationmusic.com

各部の名称と概説



- 1 ピッチホイール - 演奏中のノートのピッチを変化させます。
- 2 モジュレーションホイール - ソフトウェア/ハードウェアのパラメータにモジュレーションを適用します。
- 3 「…」ボタン (ナビゲーションモード) - 「…」ボタンを押すとFLkeyがナビゲーションモードに切り替わり、サンプルやプリセットをブラウズできます。[6ページの「使用を開始する」参照](#)
- 4 Scaleボタン - FLkeyのスケールモードのオン/オフを切り替えます。[33ページの「スケールモード」参照](#)
- 5 Shiftボタン - 二次的なシフト機能を有効にします。利用可能なシフト機能は、フロントパネルに記載されています。
- 6 LCDディスプレイ - 機器のステータスやパラメーター値を表示したり、メニューのナビゲーションを行う画面です。
- 7 Settingsボタン - LCD画面に設定メニューを表示します。[39ページの「設定」参照](#)
- 8 Preset ▲▼ ボタン - FL Studio 純正プラグインのプリセットを切り替えます。
- 9 ノブ - FL Studio 純正プラグインのプリセットにマッピングされているパラメータや、Mixer/Channel Rackのボリューム/パン、カスタムモードをコントロールするためのノブです。
- 10 Mixer ◀ ▶ ボタン - FL Studio Mixerの選択項目を左右に切り替えます。
- 11 Quantise - FL Studioのクオンタイズ機能を実行し、グリッドにノートをスナップ (吸着) させます。[29ページの「Quantise」参照](#)
- 12 Metronome - FL Studioのメトロノームまたはクリックトラックのオン/オフを切り替えます。
- 13 Undo - FL Studioのアンドゥ機能を実行します。
- 14 Redo - FL Studioのリドゥ機能を実行します。

次ページに続く



- 15** **Octave +/- ボタン** - キーボードを8オクターブの範囲 (C2～C6) で上下にトランスポートします。両方のボタンを同時に押すと、トランスポートの値が0にリセットされます。[34ページの「Octave ボタン」参照](#)
- 16** **Fixed Chord ボタン** - キーボード上で演奏するコードを保存します。Fixed Chord ボタンを押しながら鍵盤を弾くと、その鍵盤が固定コードとして登録されます。[35ページの「Fixed Chord」参照](#)
- 17** **Page ◀ ▶ ボタン** - Channel Rackのシーケンスパターンの拡張、FPCのバンク切り替え、Slicex/Fruity Slicerのページ切り替えに使用します。Scale Chordモードのボーシングページを変更したり、User/Custom Chordモードのトランスポート、インストゥルメントモードのパッドオクターブも調整可能です。
- 18** **Note Repeat ボタン** - パッドを押すと、キーボードのShift機能で設定したレートで、ノートが連続的にトリガーされます。[36ページの「ノートリピート」参照](#)
- 19** **パッド** - Channel Rackモードでの試聴およびチャンネル選択に使用します。インストゥルメントモードでは、FPC、Slicex、Fruity Slicerの操作、シーケンサーモードではビートのシーケンスを作成できます。ScaleモードおよびUser Chordモード、Customモードでは、コードをトリガーできます。
- 20** **Channel Rack ▲▼ ボタン** - すべてのモードでChannel Rackを上下に切り替え、選択中の(またはFLkeyで演奏中の) インストゥルメントを変更します。
- 21** **再生、停止、録音** - FL Studioのトランスポートをコントロールします。
- 22** **Score Log** - 直前の5分間にFL Studioに入力されたMIDIノートを記録します。



23 24 25 26

23	Sustain – 6.35mmのサステインペダルのジャック入力。
24	USBタイプBポート
25	MIDI Out – 外部MIDI 機器接続用5ピンMIDI コネクタ。 6ページの「使用を開始する」参照
26	ケンジントロックポート – お使いのFLkeyを固定しセキュリティ対策を施します。

FL Studioとの連携

FLkeyはFL Studioとシームレスに連携するように設計されており、FL Studioによる音楽制作とパフォーマンスを強力にサポートします。また[カスタムモード](#)を使う事で、ワークフローに合わせてFLkeyを好みにカスタマイズすることもできます。

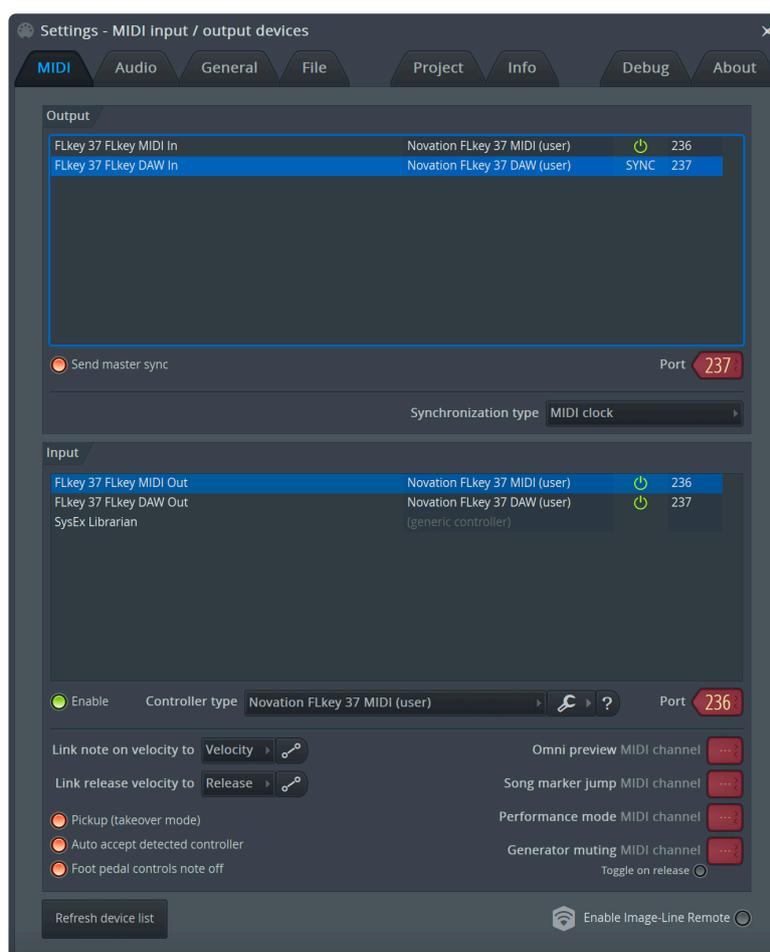
インストール

FLkeyを使用する前に、ファームウェアが最新版であることをご確認下さい。アップデートの手順は、[6ページ](#)の「FLkeyをコンピュータに接続する」をご参照ください。

FLkeyは、FL Studioバージョン20.xx以降に対応しています。FLkeyをコンピュータに接続した状態でFL Studioを開くと、FLkeyが自動的に検出され、FL StudioのMIDI設定にセットアップされます。

手動による設定

FL StudioのMIDI Settings ウィンドウ (Options > Settings > MIDI) を開き、以下のスクリーンショットと同様に設定されていることを確認します。MIDI設定は、次ページの手順に従い手動で行うこともできます。



手動による設定方法

1. MIDI Settings画面下部の「Input」パネルにあるFLkey MIDIおよびFLkey DAWの入力ポートを有効にします。
 - FLkey MIDI Out
 - FLkey DAW Out (WindowsではMIDIOUT2と表示)
2. 各項目をクリックし、右下の「Port」アイコンでそれぞれ異なるポート番号を設定します。
 - ポート番号は、未使用の任意の番号を使用できます (0以外)。
 - MIDIポートとDAWポートで異なるポート番号を設定してください。
3. 各項目を選択し、スクリプトを割り当てます。
 - MIDI入力をクリックし、「Controller type」ドロップダウンメニューから「FLkey 37 MIDI」を選択します。
 - DAW入力をクリックし、「Controller type」ドロップダウンメニューから「FLkey 37 DAW」を選択します。
4. MIDI Settings画面上部の「Output」パネルにある出力ポートをクリックし、「Port」番号を入力と一致するように設定します。
 - FLkey MIDI In
 - FLkey DAW In (WindowsではMIDIIN2と表示)
 - 手順3で選択したスクリプトが自動的にリンクします。
5. DAW出力(上部パネル)を選択し、「send master sync」を有効にします。
6. 画面下部にある「Pickup (takeover mode)」を有効にします。
7. 画面左下にある「Refresh device list」をクリックします。

トランスポートコントロール



- ・ 再生 ▶ ボタンは、FL Studioの再生ボタンと同様に機能します。再生の一時停止と続行の操作も可能です。
- ・ 停止 ■ ボタンは、再生の停止および再生位置のリセットを行います。
- ・ 録音 ● ボタンは、FL Studioの録音ステータスを切り替えます。

プリセットのナビゲーション

FLkeyは、本体でプリセットの切り替えが可能です。インストゥルメントやプラグインを選択し、Preset ▲ または Preset ▼ ボタンを押すことで、次/前のプリセットを選択できます。



外部機器との接続

FLkeyのMIDI出力を外部MIDI機器のMIDI入力に接続

コンピューターを使わずにFLkeyの5ピンDINソケットからMIDI信号を出力するには、標準のUSB電源（5V DC、最小500 mA）で本体に電源を供給してください。



サステイン入力

TS1/4インチジャック入力で標準的なサステインペダルを接続できます。プラグインによっては、サステインペダル用の設定がされていません。その場合は、プラグイン内で適切なパラメータをサステインペダルに割り当てる必要があります。

FLkeyのサステイン入力は、ペダルの極性を自動的に検出します。ソステヌートペダル、ソフトペダル、ボリュームペダルには対応しません。

ノブモード

FLkeyは8つのノブを備え、モードに応じてFL Studioの様々なパラメータをコントロールできます。ノブモードを有効にするには：

1. Shift ボタンを押し続ける、または2度押しすると、パッドが点灯しシフトモードが有効になります。ノブモードは上段のパッド (Pot Mode) で選択します。各パッド上部のテキストラベルは、選択できるノブモードを示しています。
2. 使用したいノブモードのパッドを押すと、ノブモードが有効になります。利用可能なノブモードは、以下の表の通りです。



FL StudioのMIDI Settings画面で「Pickup (takeover mode)」を有効にすると、ノブの値とパラメータの現在値が一致するまで値が変更されなくなります。

ノブモード	内容
Plugin	選択中のプラグイン内の8つのパラメータをコントロールします。 ノブを動かすと、パラメータ名とパラメータ値がLCD画面に一時的に表示されます。
Mixer Volume	ミキサーのフェーダーが8つずつにグループ (バンク) 分けされ、ノブに割り当てられます。
Mixer Pan	ミキサーのパンニングが8つずつにグループ (バンク) 分けされ、ノブに割り当てられます。
Channel Volume	チャンネルのボリュームが8つずつにグループ (バンク) 分けされ、ノブに割り当てられます。
Channel Pan	チャンネルのパンニングが8つずつにグループ (バンク) 分けされ、ノブに割り当てられます。
Custom	任意のパラメータを8つのノブに割り当てることができます。

バンクの切り替え

MixerまたはChannelのVolume/Panノブモードでは、ミキサートラックやチャンネルのバンクを切り替えることができます。Channel Rackパッドモード使用時は、8つずつのChannel Rackグループ毎にバンクが切り替わり、下段のパッドのパラメータをノブでコントロールできます。その他すべてのパッドモードでは、一度に1トラックまたは1チャンネルずつバンクが切り替わります。

- Mixer VolumeモードおよびMixer Panモードでは、「Mixer」ラベル下部の◀または▶ボタンを押すと、前/次のトラックに選択が切り替わります。FL Studio画面上では、ノブでコントロールできるトラックが赤色に選択されます。
- Channel VolumeモードおよびChannel Panモードでは、「Channel Rack」の▼または▲ボタンを押すと、前/次のバンクに選択を切り替えられます。FL Studio画面上では、ノブでコントロールできるトラックが赤色に選択されます。

Plugin

Pluginモードでは、FLkeyのノブで選択中のプラグインの8つのパラメータをコントロールできます。ほとんどのFL Studio純正プラグインは、FLkeyのノブモードに対応しています。



注意：FL Studio純正プラグインでFLkeyに割り当てられているパラメータは変更できません。サードパーティー製プラグインでノブモードを使用する場合は、カスタムノブモードを使う事でマッピングを自由に作成できます。

Mixer Volume

Mixer Volumeモードを使うと、FLkeyの8つのノブでFL Studioのミキサーフェーダーを操作できます。ミキサートラックのボリュームは、8つずつにグループ化され、ページを切り替えることで目的のトラックにアクセスできます。



Mixer Pan

Mixer Panモードを使うと、FLkeyの8つのノブでFL Studioミキサーのパンニングを変更できます。Mixerチャンネルのパンニングは、8つずつにグループ化され、ページを切り替えることで目的のトラックにアクセスできます。



Channel Volume

Channel Volumeモードを使うと、FLkeyの8つのノブでチャンネルボリュームをコントロールできます。チャンネルボリュームは8チャンネルずつにグループ分けされ、ページを切り替えることで目的のチャンネルにアクセスできます。



Channel Pan

Channel Panモードを使うと、FLkeyの8つのノブでチャンネルのパンをコントロールできます。チャンネルパンは8チャンネルずつにグループ分けされ、ページを切り替えることで目的のチャンネルにアクセスできます。



Custom

任意のパラメータをノブに割り当て、最大8つのパラメータを同時にコントロールできるモードです。ノブが送信するメッセージは、Novation [Components](#) で変更できます。



FL StudioのパラメータをFLkeyのノブにマッピングするには：

1. FL Studioで目的のパラメータを右クリックします。
2. 2つのリモートコントロールモードから、いずれかのモードを選択します（以下参照）。
3. ノブを動かすと、そのノブにパラメータが割り当てられます。

選択できるリモートコントロールモード：

- ・ Link to controller - パラメータがFL Studioで選択されているかに関わらず、パラメータとノブが一対一でリンクされます。このモードはプロジェクト単位で動作します。
- ・ Override global link - FL Studioの「per-project-link」機能を有効にしない限り、すべてのプロジェクトでリンクが有効になります。FL Studioでフォーカスされている画面内のパラメータがコントロールされるため、1つのノブで複数のパラメータをコントロールできるのが特徴です。

パッドモード

FLkeyは16のパッドを備え、モードに応じてFL Studioの様々な要素をコントロールできます。パッドモードを有効にするには：

1. Shift ボタンを押し続ける、または2度押しすると、パッドが点灯しシフトモードが有効になります。パッドモードは下段のパッドで選択します。各パッド下部のテキストラベルは、選択できるパッドモードを示しています。
2. 使用したいモードのパッドを押すと、パッドモードが有効になります。利用可能なパッドモードは、以下の表の通りです。



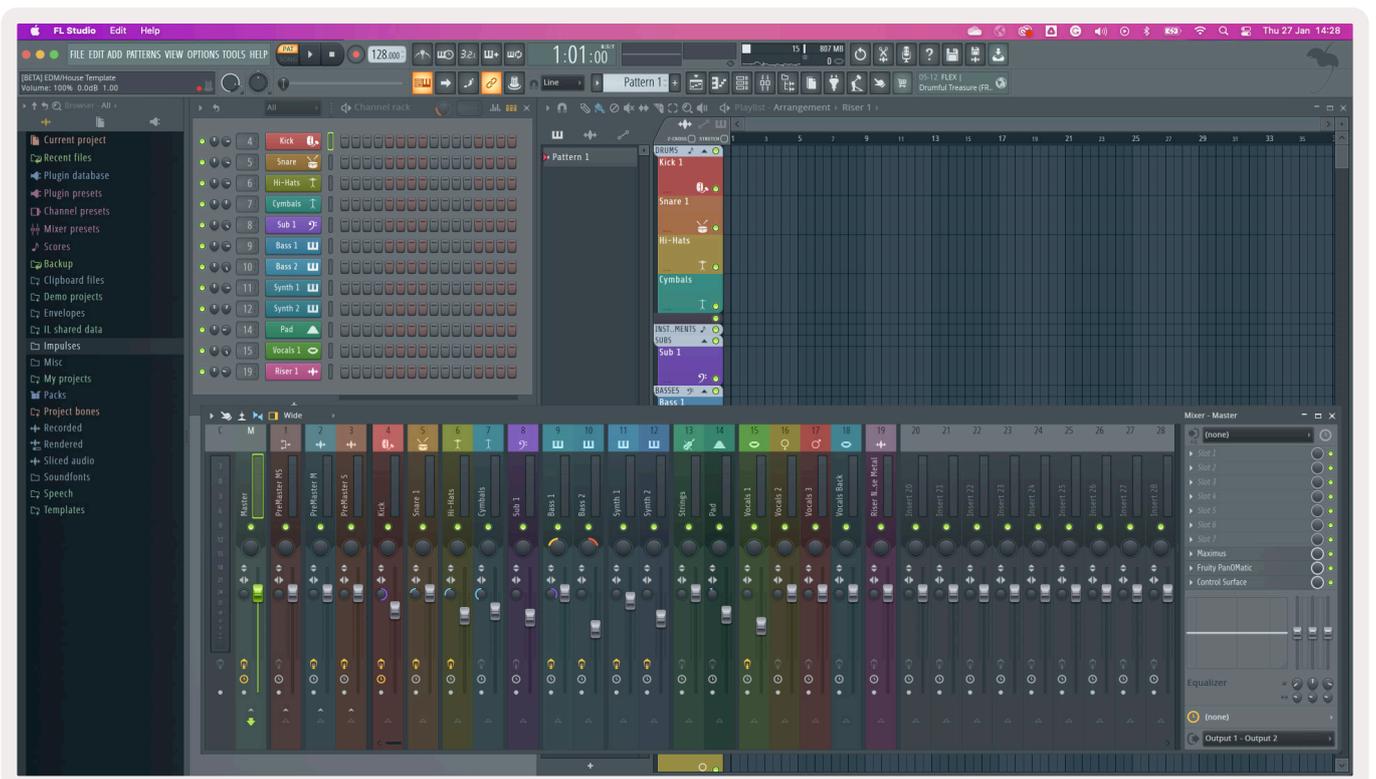
モード	内容
Channel Rack	Channel Rackの試聴およびチャンネルの選択を行います。
Instrument	選択中のインストゥルメントをコントロールします。FPC、Slicex、Fruity Slicerなど一部のインストゥルメントは、独自のレイアウトで表示されます。
Sequencer	シーケンサーのステップを作成/編集できます。グラフエディター全体の編集も可能です。
Scale Chord	設定したルートとスケールで、あらかじめ定義されたコードを演奏できます。
User Chord	最大16のコードを登録/トリガーできます。
Custom	任意のパラメータを16のパッドに割り当てることができます。

Channel Rack

Channel Rackパッドモードを使うと、最大16チャンネルのChannel Rackを同時に演奏できます。それぞれのパッドが各チャンネルのChannel Rackに相当し、パッドを押すことでC5のノートがトリガーされます。各パッドは、割り当てられたチャンネルの色に点灯します。

パッドを押すと、FL Studioは該当するチャンネルを選択した後、音声をトリガーします。選択中のChannel Rackに相当するパッドは白く点灯し、LCD画面にチャンネル名が一時的に表示されます。FLkeyでは、一度に1つのチャンネルを選択可能です。FL Studioでチャンネルが選択されていない場合は、パッドは白く点灯しません。

パッドは左から右、下段から上段の順に並び、8x2行で表示されます。Channel Volume、Channel Panモード時は、下段のパッドに相当するChannel Rackのパンとボリュームを各ノブで調整できます。



Channel Rackのバンク切り替え

Channel Rack ▼ または Channel Rack ▲ ボタンを押すと、Channel Rackが8つずつのグループ単位で切り替わります。Channel Rackの矢印ボタンは、その方向にバンクを切り替えられる場合に点灯します。また、この操作で選択中のチャンネルが切り替わることはありません。

Channel Rack ▼ / Channel Rack ▲ ボタンを長押しすると、Channel Rackを自動スクロールできます。

Channel Rackグループ

Channel Rackパッドのレイアウトは、FL Studio内のChannel Rackグループに追従して変化します。FL StudioのChannel Rackウインドウ上部にあるドロップダウンメニューでChannel Rackグループを切り替えると、それに応じてパッドのレイアウトが変更されます。

Instrumentパッドモード

Channel Rack プラグインをFLkeyからコントロールできるモードです。インストゥルメントモードを有効にするには、Shiftボタンを押しながらFLkeyの「Instrument」ラベル上部のパッドを押します。以下のインストゥルメントレイアウトが利用でき、パッドでMIDIノートを入力できます。

- ・ FPCパッド
- ・ Slicex
- ・ Fruity Slicer
- ・ デフォルトのインストゥルメントレイアウト

デフォルトでは、パッド全体がクロマチック鍵盤のレイアウトで表示されます（下図参照）。Instrumentモード使用時にスケールモードを有効にすると、選択したスケールに含まれる2オクターブ内の8つのMIDIノートが、パッドから出力されます。

Preset ▲ または Preset ▼ ボタンを押すと、インストゥルメントのプリセットを切り替えられます。



FPC

Instrumentモード時にChannel RackにFPCプラグインを追加すると、FPCドラムパッドをFLkeyから演奏できます。FPCプラグインチャンネルを選択中：

- ・ 左側の4x2のパッドで、FPCパッドの下半分をコントロールします。
- ・ 右側の4x2のパッドで、FPCパッドの上半分をコントロールします。

「Page」下部の ◀ または ▶ ボタンにて、FPCのバンクAとバンクBを切り替えられます。

FPCモードでは、パッドの色がチャンネルの色ではなく、FPC独自の色に点灯します。

Slicex

Instrumentモード時にChannel RackにSlicexプラグインを追加すると、SlicexのスライスをFLkeyのパッドでトリガーできます。

Page ◀ または Page ▶ ボタンで16スライス毎にページを切り替えることができ、それらをパッドでトリガーできます。

Fruity Slicer

Instrumentモード時にChannel RackにFruity Slicerプラグインを追加すると、Fruity SlicerのスライスをFLkeyのパッドでトリガーできます。

Page ◀ または Page ▶ ボタンで16スライス毎にページを切り替えることができ、それらをパッドでトリガーできます。

デフォルトのインストゥルメントレイアウト

その他のプラグインをChannel Rackに追加する、またはプラグインが何も追加されていない場合のレイアウトです。

デフォルトでは、FLkeyのスケールモードを使用しない限り、C5（MIDIノート84）が左下のパッドに割り当てられます。この設定はFLkeyのScaleモードで変更できます。

Page ◀ ボタンでオクターブが下がり、Page ▶ ボタンでオクターブが上がります。明るく点灯する左上/右下のパッドは、常にルートノート（デフォルトはC）となります。Scaleモード時は、選択したスケールと一致するようにパッドのレイアウトが変更され、左下のパッドがルートノートになります。

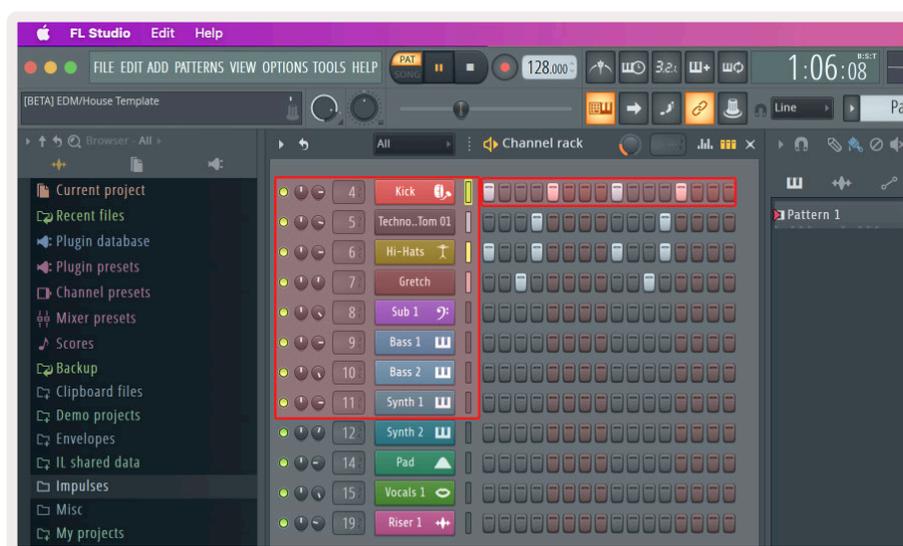
Sequencer

Sequencerモードを使うと、FL StudioのChannel Rack内のシーケンサーグリッドをFLkeyでコントロールできます。選択中のインストゥルメントやパターン内のステップを追加/変更可能です。Sequencerモードを有効にするには、Shiftボタンを押し続ける、または2度押ししてからSequencerボタンを押します。上段のパッドがステップ1～8、下段がステップ9～16を示します。

Sequencerモードを有効にすると、パッドが選択中のChannel Rackトラックのステップを表示します。アクティブなステップはトラックの色に明るく点灯し、非アクティブなステップは同じ色で薄く点灯します。パッドと押すことで、ステップのオン/オフを切り替えられます。

Channel Rack ▲および Channel Rack ▼ ボタンを押すと、インストゥルメントを切り替えることができます。パッドは、編集集中のシーケンサーチャンネルの色で点灯します。

以下の図とスクリーンショットは、FL Studioの「Kick」チャンネルのシーケンサーで4つのステップがオンに設定され、それに従ってFLkeyのパッドが点灯している様子を示しています。



トランスポート再生中は、再生位置のステップ（上図のステップ6）が白く点灯します。シーケンサーを一時停止すると、停止時のステップ位置でパッドが白く点灯を続けます。トランスポートを停止した場合は、停止位置のパッドは消灯します。

Page ◀および Page ▶ ボタンを押すと、前/次の16ステップのグループに表示が切り替わります。選択中のステップは、FL StudioのChannel Rack画面で赤い枠として表示されます。

Channel Rack グラフエディター

Sequencerモードでは、ノブ1～8を用いてステップのパラメータを変更できます。グラフエディターの8つのパラメータが、左から右の順に各ノブに割り当てられます（詳細は下の表を参照）。ノブモードは、最後に選択されたモードが有効になります。グラフエディターを有効にするには、変更したいステップを長押しします。Channel Rack グラフエディターモードの詳細は、下の表の通りです。

パラメータを変更すると、FL Studioでグラフエディターが表示されます。ステップのノート値を変更すると、それに応じてグラフエディターウィンドウのノート値が変更されます。

ラッチ編集

1つまたは複数のシーケンサーステップ値を編集できる機能です。ラッチ編集モードを有効にするには、目的のステップを1秒以上長押しします。パッドがグラフエディターのパラメータの色に点灯し、ラッチ編集モードが有効になったことを示します。このときステップから手を離してもモードは解除されません。ノブを動かしてステップのパラメータを変更できます。

任意のステップを押すことでラッチモードのステップを追加/削除でき、あらゆるパラメータ変更を選択中のすべてのステップに反映できます。

Channel Rack ▼ ボタンを押すと、ラッチ編集モードを解除できます。

クイック編集

ステップを押さえてから1秒以内にノブを動かすと、クイック編集モードが有効になります。ステップパッドを押した状態でいずれかのノブを回すことで、グラフエディター内のパラメータをコントロール可能です。パラメータの変更は、押されているすべてのステップに反映されます。

ノブを動かしている間はFL Studio上でグラフエディターが表示され、ステップから手を離すとグラフエディターが閉じられます。

クイック編集モードを解除するには、押されているすべてのステップから手を離します。

複数のパラメータを編集するには、ステップパッドを押したまま目的のノブを操作します。

ノブ	グラフエディターのパラメータ
ノブ 1	Note Pitch
ノブ 2	Velocity
ノブ 3	Release Velocity
ノブ 4	Fine Pitch
ノブ 5	パンニング
ノブ 6	Mod X
ノブ 7	Mod Y
ノブ 8	Shift

Scale Chordモード

あらかじめ定義されたコードを演奏できるモードです。コードのバンクにアクセスするには、Shiftボタンを押しながらScale Chordパッド（5番目のパッド）を押します。パッドの各行がコードのバンクを示します。デフォルトのルートキーはCマイナーです。ルートキーを変更する方法は、[33ページの「スケールモード」](#)の章をご参照ください。



各行の最初と最後のパッドが明るく点灯し、ルートコードの位置を示します。Page ◀▶ ボタンを押すと、コードのページを切り替えられます。このモードでは、3ページにわたり以下のコードが定義されています：トライアド、7th、9th、6/9th

LCD 画面表示	
ページ1 (上図)	上段：トライアド（水色） 下段：7th（紺色）
ページ2	上段：7th（紺色） 下段：9th（紫）
ページ3 (下図)	上段：9th（紫） 下段：6/9th（ピンク）



パッドを押すと緑色に点灯し、手を離すと元の色に復帰します。コードのオクターブを変更するには、Shiftボタンを押しながらPage ◀▶ ボタンを押します。±3オクターブの範囲で変更可能です。

ShiftボタンとScaleボタンを同時に押すと、ピンク色に点灯したパッドでスケールを選択できます。このとき鍵盤上で任意のキーを押さえると、定義されたコードのルートキーが変更されます。

User Chordモード

最大6和音のコードを各パッドに割り当てられるモードです。登録したコードはFLkeyの内蔵メモリに保存されるため、電源をオフにしても消えることはありません。FLkeyの電源を再起動した後も再び利用できます。

User Chordモードにアクセスするには、Shiftボタンを押しながらUser Chordパッド（6番目のパッド）を押します。

パッドにコードを割り当てるには、User Chordパッドを押さえたまま登録したいノートを鍵盤で押さえます。各パッドには、最大6つのノートを登録できます。このとき、すべての構成音を同時に押さえる必要はありません。

コードが割り当てられると、パッドが青く点灯します。パッドを押すとコードが演奏され、緑に点灯します。コードが割り当てられていないパッドは点灯しません。下図では4つのパッドが青色に点灯し、コードが割り当てられていることを示しています。



コードの割り当てを解除するには、Preset ▼ ボタンを長押しします。コードが割り当てられているパッドが赤色に点灯します。取り消したいパッドを押すとコードの割り当てが解除され、パッドが消灯します。



Page ◀▶ ボタンを押すと、半音ずつ±12の範囲でトランスポーズすることができます。このときLCD画面に変更値が表示されます。



Custom パッドモード

任意のパラメータをパッドに割り当て、自由にコントロールできるモードです。パッドが送信するメッセージは、Novation [Components](#) で変更できます。

Quantise



FLkey 37のQuantiseボタンを押すと、FL Studioは「quick Quantise start times」機能を実行し、選択中のChannel Rackチャンネルのピアノロールに含まれるすべてのノートの開始位置を、ピアノロールで設定されているスナップ位置にクオンタイズします。

Metronome

FL Studioのメトロノームのオン/オフを切り替えます。

Undo/Redo



UndoおよびRedoボタンを押すと、FL Studioのアンドゥ/リドゥ機能が実行されます。FL Studioの「Alternate undo mode」設定は、これらのボタンの動作に影響しません。

Score Log



Score Log ボタンを押すと、FL Studio が直前の 5 分間に受信したすべての MIDI ノートが選択中のパターンに挿入されます。パターン内に既にノートデータが存在する場合は、既存のノートを上書きするかを確認するメッセージが表示されます。

FL Studio のメニュー「Tools > Dump Score Log to Selected Pattern」と同等の機能です。

Channel Rack の選択項目の確認



FL Studio で Channel Rack が表示されている状態で、任意のパッドレイアウトモード時に Shift ボタンを長押しすると、現在の選択項目が表示されます。チャンネルバンク、Channel Rack で選択中のノブやチャンネルが確認できます。Mixer Volume/Pan モード時は、選択中のミキサーバンクが表示されます。

ループ録音（初回起動時）

ループ録音のオン/オフは、FLkeyでは変更できません。ループ録音は、FLkeyをFL Studioに最初に接続した際に有効になります。ループ再生がオンの場合、録音中の選択パターンは長さが延長されることなく常にループします。

ループ録音を無効にするには、FL StudioのツールバーにあるRecording Loopアイコン（鍵盤と循環マーク）をクリックします。ループ録音を無効にすると、FLkeyをコンピュータに接続し直してもループ録音設定は無効のままとなります。



ループ録音オフ



ループ録音オン

FL Studio ウィンドウのフォーカス表示

FLkeyの操作の中には、操作に応じてFL Studio ウィンドウのフォーカスが変更されるものがあります。以下の操作は、Channel Rackをフォーカスします：

- ・ パッドモード
 - Channel Rack
 - シーケンサー
- ・ ノブモード
 - Channel Volume
 - Channel Pan
- ・ シーケンサーのページを左右に切り替え
- ・ Channel Rackでのチャンネル選択

以下の操作は、Mixerをフォーカスします：

- ・ ノブモード
 - Mixer Volume
 - Mixer Pan
- ・ Mixer VolumeまたはMixer Panの変更
- ・ ミキサーのバンク切り替え

以下の操作は、選択チャンネルのプラグインをフォーカスします：

- ・ Plugin ノブモードでパラメータを変更

スタンドアローン機能

ナビゲーションモード - (「…」ボタン)

「…」ボタンを押すとFLkeyがナビゲーションモードに切り替わり、サンプルやプリセットをブラウズできます。ナビゲーションモードを有効にすると、下図の様にパッドが点灯します。4つのパッドがコンピュータのカーソルキーを模したレイアウトで上下左右に青く点灯します。

緑に点灯するパッドは、コンピュータのEnterキーと同様に機能します。青色のパッドはカーソルキーとして機能し、FL Studio内のプリセットやサンプル、ソフトウェアプラグインのブラウズに使用できます。またこれらのパッドは、その他の場面でもコンピュータのカーソルキーおよびEnterキーと同様に使用することができます。

ナビゲーションキー（青色のパッド）でブラウザ上のサンプルを選択し、Enterキー（緑色のパッド）でサンプルをChannel Rackにロードすることができます。



スケールモード

鍵盤またはパッド（インストゥルメントモード時）を演奏する際、選択したスケールのノートだけが発音されるモードです。Scaleボタンを押すとボタンが点灯し、Scaleモードが有効になります。

LCD画面にはアクティブなスケール（デフォルトはCマイナー）が表示されます。

スケールは、Scale設定で変更できます。Shiftボタンを押しながらScaleボタンを押すと、Scaleボタンが点滅し、Scale設定が有効になります。

ルート音を変更するには、ルートに設定したい鍵盤を押します（黒鍵はシャープ#で表記されます）。パッドでスケールの種類を選択します。以下の図は、Scale設定モード時の様子です。



下段のパッドでスケールを選択します。選択したスケール名がLCD画面に表示されます。選択できるスケールは以下の通りです（パッドの左から右の順）。

1. マイナー
2. メジャー
3. ドリアン
4. ミクソリディアン
5. フリュギア
6. ハーモニックマイナー
7. マイナーペンタトニック
8. メジャーペンタトニック

スケール設定モードを解除するには、Scaleボタンまたはその他のボタンを押します。10秒以上操作が行われないとスケール設定モードが自動的に解除され、直前の状態に復帰します。

Octave ボタン

Octave ボタンを押すと、鍵盤のオクターブが1つずつ増減します。FL StudioではオクターブをC0～C10の範囲で変更でき（その他のソフトウェアではC-2～G8）、Shift ボタンを押さえたまま Octave ボタンを押すことで、鍵盤を半音単位でトランスポーズできます。

オクターブを変更すると、LCD画面に現在のオクターブ値が5秒間表示されます。現在のオクターブ範囲は、Octave +/- ボタンの明るさで確認でき、ボタンが明るく点灯するほどオクターブが移動していることを示します。

Octaveの +/- ボタンを同時に押すと、オクターブがリセットされます。Shift ボタンを押しながら Octaveの +/- ボタンを同時に押すと、トランスポーズがリセットされます。

Shift ボタンを押しながら Octaveの + または - ボタンを押すと、鍵盤が半音単位でトランスポーズされます。このときLCD画面にトランスポーズ値が表示されます。

Fixed Chord

Fixed Chord（固定コード）モードを使うと、コードを指1本で演奏でき、他の鍵盤を押すことでコードの移調が簡単に行えます。コードを設定するには、Fixed Chord ボタンを押さえたまま、コードに含めたい鍵盤を弾いた後、手を離します。

このときFLkeyは、コードの構成音の一番低いノートではなく、最初に入力されたノートをコードの「ルート音」として認識します。



たとえば、Fixed Chord ボタンを押しながら C、E、G の順に鍵盤を押し手を離します（Cメジャーコード）。FLkeyはこのコードを Fixed Chord（固定コード）として記録します。Fixed Chord ボタンから手を離すと設定が完了します。

これで、どの鍵盤を押してもメジャーコードが鳴るようになります。たとえば鍵盤で F を押すと Fメジャーコード（下図参照）が演奏され、Ab を押せば Abメジャーコードが演奏されます。



ノートリピート

Note Repeatは、パッドを押すことでノート（特にドラムヒットで有効）を連続的にトリガーできる機能です。設定されたテンポに同期した様々なレートで演奏できます。

FLkeyをFL Studioに接続した場合、Note Repeat機能は再生状態に関わらず常にDAWのテンポに追従します。デフォルトではFL Studioのマスターシンク（MIDI Settings画面）が有効であるため、Note RepeatはFL Studioのグリッドのタイミングでトリガーされます。マスターシンクを無効にすると、パッドを押したタイミングでNote Repeatのトリガーが開始されます。

Note Repeatを使用する

Note Repeatボタンを押すと、パッドがNote Repeatモードに切り替わります。デフォルトではFL StudioからFLkeyにMIDIクロックが送信されるため、Note RepeatはFL Studioのテンポに追従します。いずれかのパッドを押すと、設定されたレートとテンポでトリガーが繰り返されます。

Sequencerモードでは、パッドがシーケンサーの動作に割り当てられるため、Note Repeatは機能しません。

レートを変更する

レートを変更するには、Shiftボタンを押しながら（またはダブルタップでラッチ）、Note Repeatボタン押し、Note Repeat設定モードを有効にします。1/4、1/8、1/16、1/32、Tripletのテキストラベルが記載された鍵盤から、目的のレートの鍵盤を押します。Tripletは、選択中のレートを三連符でトリガーします。たとえば、レートが1/8のときにTripletを有効にすると、レートは1/8tとなります。

Note Repeatボタンを長押し、またはラッチした状態で、レートを変更しながらパッドを演奏することも可能です。Note Repeat設定をオンにするとNote Repeatボタンが点滅し、鍵盤でレートやタップテンポを設定できます。

テンポを設定する

Note Repeat設定モードでは、「Tap Tempo」と記載された鍵盤を繰り返し押すことで、テンポを設定できます。FL Studioでマスターシンクが有効（デフォルト設定）の場合は、LCD画面に「Tempo External」と表示され、タップテンポでDAWのテンポを変更できます。このときNote Repeatボタンは、テンポと同期して点滅します。

ノート/ドラムヒットのベロシティを変更する

Note Repeatトリガーのベロシティは、パッドを押す力でコントロールできます。ベロシティの初期値は、最初にパッドを押した強さで決まります。パッドを押し続けながら、押す力を強めるとベロシティが大きくなり、弱めるとベロシティが小さくなります。

最初にパッドを押してから押す力を弱めた場合は、ベロシティは小さくならず初期値を維持します。押す力を強めてベロシティが初期値を超えた場合にのみ、ベロシティが変更されます。

ノブのピックアップ機能

FL Studioに接続中、FLkeyは「Pickup (takeover mode)」の設定に従って動作します。

スタンドアロンモードの場合は、設定メニューからこの機能を有効にできます。ノブのピックアップ機能を有効にすると、FLkeyは各ページのノブの値を記録します。ノブを動かす際、ノブの値が保存された値に達するまでMIDIメッセージが送信されないため、パラメータ値の予期せぬジャンプを防止できる機能です。

ノブを回してから値が変更されない（ピックアップ値に達していない）間は、LCD画面に保存された値が表示されます。

カスタムモードおよび Components

カスタムモードを使うと、各コントロールセクションを操作するための独自のMIDIテンプレートを作成できます。テンプレートはNovation [Components](#)で作成し、FLkeyに送信できます。

Componentsを使用するには、Web MIDI対応ブラウザ（Google ChromeまたはOperaを推奨）でcomponents.novationmusic.comにアクセスします。もしくはNovationのアカウントページから、Componentsのスタンドアロン版をダウンロードしてください。

カスタムモード

Novation [Components](#)では、FLkeyのノブおよびパッドがカスタムメッセージを送信するように設定できます。これらのカスタムメッセージ設定をカスタムモードと呼びます。カスタムモードは、Shiftボタンを押しながらCustomパッドを押すことで有効にできます。



ノブ

FLkeyでは、1つのカスタムノブモードを使用できます。カスタムノブモードにアクセスするには、Shiftボタンを押したまま上段（Pod Mode）のCustomパッドを押します。[Components](#)を使用すると、任意のCC番号をノブに設定することができます。

何も設定しない場合でも、カスタムノブモードはデフォルト設定のメッセージを送信します。FL Studioの「Multilink to Controllers」機能を用いて、FLkeyのノブをFL Studioのパラメータに割り当てることも可能です。

パッド

FLkeyでは、1つのカスタムパッドモードを使用できます。カスタムパッドモードにアクセスするには、Shiftボタンを押したまま下段（Pad Mode）のCustomパッドを押します。[Components](#)を使用すると、任意のMIDIノートやプログラムチェンジメッセージ、CCメッセージをノブに設定することができます。

設定

Settings ボタンを押すと、LCD 画面に設定メニューが表示されます。Preset ▲▼ ボタンで設定項目をスクロール可能です。設定値は、パッドまたは Page ◀▶ ボタンで変更できます。設定可能な項目は以下の通りです。

設定	説明	値の範囲	初期設定
Keys MIDI Channel	鍵盤のMIDIチャンネルを設定します	1～16	1
Chords MIDI Channel	ScaleコードおよびUserコードのMIDIチャンネルを設定します	1～16	2
Drums MIDI Channel	ドラムモードのMIDIチャンネルを設定します	1～16	10
Velocity Curve (Keys)	パッドのベロシティカーブを選択します	Soft/Normal/Hard/Off	Normal
Velocity Curve (Pads)	パッドのベロシティカーブを選択します	Soft/Normal/Hard/Off	Normal
Pad Aftertouch	アフタータッチのタイプを設定します	Off/Channel/Poly	Poly
Pad AT Threshold	アフタータッチが有効化するスレッシュホールドを設定します	Low/Normal/High	Normal
Pot Pick-Up	スタンドアロンモード時のノブピックアップ機能のオン/オフを設定します。この設定は、FL Studioには反映されません	Off/On	Off
MIDI Clock Out	MIDI クロック出力のオン/オフを切り替えます	Off/On	On
Brightness	パッドおよびLCD画面の明るさを設定します	1～16	9
Vegas Mode	ベガスモードのオン/オフを切り替えます	Off/On	Off

LEDの輝度

お使いの環境に合わせて、FLkeyのすべてのLEDの明るさを調整できます。LEDの輝度を変更するには：

1. Settings ページを開きます。
2. Preset ▲▼ ボタンを押し、「Brightness」を表示します。
3. Page ◀▶ ボタンまたはパッドを押すと、LEDの明るさが1～16の範囲で変更されます。

ベガスモード

FLkeyを操作しない状態が5分間続くと、ベガスモードが有効になります。パッドの点灯がスクロールし、任意のパッドやボタン、鍵盤を押すまで継続されます。ベガスモードのオン/オフを切り替えるには：

1. Settings ページを開きます。
2. Preset ▲▼ ボタンを押し、「Vegas Mode」を表示します。
3. Page ◀▶ ボタンまたは最初の2つのパッドを押すと、LCD画面にVegas Modeのオン/オフが表示されます。

イージースタート

イージースタートモードからFLkey 37を削除するには：

1. 「Octave +」「Octave -」 ボタンを押しながらUSBケーブルをFLkey 37に接続すると、FLkey 37がブートローダーモードで起動します。LCD画面の「Easy Start:」が表示でイージースタートのオン/オフを確認できます。
2. Note Repeat ボタンを押すと、イージースタートがのオン/オフを切り替えられます。
3. Mixer ◀ ボタンを押すと、FLkeyにメインのファームウェアが読み込まれ、通常の動作に復帰します。

重量および寸法

重量	2.18 kg
高さ	62 mm (ノブキャップを含む場合、77 mm)
幅	555 mm
奥行	258 mm

トラブルシューティング

FLkeyを使い始めるためのヘルプが必要な場合は、以下をご参照ください。

novationmusic.com/get-started

FLkeyに関するご質問やご相談は、ヘルプセンターをご利用ください。以下のURLからサポートチームにお問い合わせいただけます。

support.novationmusic.com

商標

Novationの商標はFocusrite Audio Engineering Ltd.が所有しています。このマニュアルに記載されているその他すべてのブランド名、製品名、会社名、およびその他の商標登録または商標は、それぞれの所有者に帰属します。

免責事項

Novationは、ここに記載されている情報が正確で完全であることを保証するために可能なすべての措置を講じています。いかなる場合でも、Novationは、本マニュアルまたは記載されている装置の使用に起因する装置、第三者または装置の所有者に対する損失または損害についていかなる責任も負いません。本書に記載されている情報は、予告なしに変更することがあります。仕様および外観は、リストおよび例示されているものとは異なる場合があります。

著作権および法定通知

Novationは、Focusrite Audio Engineering Limitedの登録商標です。FLkeyは、Focusrite Audio Engineering Plcの商標です。2022 © Focusrite Audio Engineering Limited. 無断転用禁止。

Novation

Focusrite Audio Engineering Ltd.の一部門

Windsor House, Turnpike Road

Cressex Business Park , High Wycombe

Buckinghamshire , HP12 3FX

United Kingdom

電話: +44 1494 462246

ファックス: +44 1494 459920

e-mail : sales@novationmusic.com

ウェブサイト : novationmusic.com

警告 :

本製品を通常に動作させている場合にも、強力な静電放電（ESD）の影響を受ける可能性があります。このような場合には、USB接続を一度解除し、再度接続することで再起動をお試しく下さい。通常の動作が回復します。